

学校だより

令和6年7月19日



いちよう

目指す学校像

生徒一人一人の力が伸びる学校

新座市立第三中学校

〒352-0015 新座市池田1-1-1

TEL (048) 479-4052 FAX 482-0133

埼玉の偉人に学ぶ

校長 石田 和男

7月は「文月」とも言われ、梅雨が明け、暑さが厳しくなる時期でもあり、稲の成長を頼もしく感じる季節でもあります。また、7日は「七夕」でしたが、3年生は「志望校に合格できますように」という願い事をした人もいたのではないのでしょうか。願い事を夢で終わらせないためにも、目標を立て、一歩ずつ確実に歩みを進めてほしいものです。

まもなく長い夏休みに入ります。学力面でも、体力面でも大きく成長するチャンスです。しかし、人によって夏休みの使い方に大きな差が出ます。意志のある人は、毎日コツコツ勉強を続け、その積み重ねが9月に大きな力や財産になって自分に返ってきます。勉強をやり遂げた自信と満足感でいっぱいになります。また、部活動や社会体育に休まず参加して、熱心に練習に励んだ人は、秋になって実力が上がったことに自分でも驚くことでしょう。そのような夏休みになることを願っています。また、熱中症には、十分注意して過ごしてください。

さて、7月3日に右のような新紙幣が発行されました。そのお札に描かれている人物は、誰ですか。そうです。渋沢栄一さんです。もちろん、みなさんは知っていますよね。その渋沢さんと深い関わりがあるのが、群馬県にある、富岡製糸場です。世界遺産にも登録されている富岡製糸場は、明治5年（今から152年前）、明治政府が設立しました。開国したばかりの日本政府は、産業や科学技術の近代化の資金を集めるために、生糸の輸出に力を入れることにしました。そして、政府は、生糸の品質改善・生産向上、技術指導者育成を目的として官営の工場を建設しました。渋沢さんは、当時明治政府の大蔵省の役人でした。農家出身で養蚕に詳しくことから富岡製糸場設置主任に任命され、フランス人技師らとともに建設に取り組みました。渋沢さんは、農民時代には倒幕の志をたてたこともありましたが、江戸幕府最後の将軍となる一橋慶喜の家臣となります。そして、約1年間江戸幕府の役人としてヨーロッパに滞在して、西洋の産業や文化に触れ、見聞を広めました。帰国後、今度は明治政府の役人として新しい日本の国づくりに関わりました。役人の期間は4年ほどと短かったのですが、その時に富岡製糸場の設立に関わりました。大蔵省を辞職してからは、500以上の企業の設立、600以上の社会福祉事業に尽力しました。多くの社会貢献活動にも取り組み、ノーベル平和賞の候補にもなったことがあります。多くの名言のなかでも、『もうこれで満足だという時は、すなわち衰える時である。』は、印象深い言葉です。この言葉の中に、新しいことに挑戦し、よりよい社会をつくろうという渋沢さんの思いが込められていると感じました。常に向上心を忘れず、ベストな方法は何かを考えていくことが、成長・発展には必要です。第三中も、第三中に関わるみなさんも、そういう思いでいたいものです。



夏の交通事故防止運動(7/15~24)

今年の運動の重点は、次の3点です。①自転車乗用時のヘルメット着用促進と交通ルールの遵守

②子どもと高齢者の交通事故防止 ③飲酒運転の根絶 特に、今年は新座警察署より、ヘルメットの着用についての指導が入っております。以前からお伝えしている通り、道路交通法で努力義務となっておりますので、自転車乗用時には、おとなも子どもも着用をお願いします。